



様式第4号（第6条関係）

平成29年6月5日

富士見市議会議長 尾崎孝好 様

会 派 名 草の根  
代 表 八子 朋弘

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 平成29年6月1日
- 2 参加者名 伊勢田幸正
- 3 場所（行政視察地・研修場所）  
幕張メッセ 千葉市美浜区中瀬2-1  
第4回 イベント総合 EXPO 併催セミナー  
仕掛け人が語る！ライブと地域活性の未来  
～ 「ももクロ春の一大事2017 in 富士見市」 がもたらしたもの ～  
(株) スターダストプロモーション 執行役員／プロデューサー 川上アキラ氏
- 4 調査・研修概要
- 5 感想及びまとめ  
別紙の通り

\*行政視察に関する調査書、概要、参考資料等は、会派にて保管

## 講師・講演について

講師の川上アキラ氏はスターダストプロモーション執行役員であり、本市PR大使の有安杏果さんが所属する「ももいろクローバーZ」の生みの親として知られる。

今回の市制45周年事業について、主催者側の視点から話を聞く貴重な機会と考え、聴講した。

## 講演要旨

### 第1章「富士見市の運動公園に2日間で4万人が集まった」

有安杏果さんが富士見市PR大使の委嘱を受け、映画「幕が上がる」などで交流があった平田オリザ氏から「富士見市で何かできないか」という打診があったのが開催のきっかけとなった。後述に記しているように、「イベント開催のノウハウはあっても、開催地確保には困っていた」という事情もあり、「行政とのコラボで解決できる課題もある」ことから、開催に向けた流れができた。

### 第2章 ももいろクローバーZとは

グループの簡単な紹介が行われた。

### 第3章 ライブ会場が足りない

既存の施設の多くが、昭和の東京五輪で建設されたこともあり、平成32年（2020年）の東京五輪に向け、施設改修に入っていることもあり、イベントを仕掛ける立場からは、会場の確保に困っているという事情がある。

### 第4章 富士見市でライブを

会場となった第二運動公園は駅から離れ、徒歩40分の場所であるが、事業者側には過去に「軽井沢スノーパーク」でのライブ（7000人規模）など交通手段が極めて限られた場所でのイベントを開催してきた実績があった。

会場はこれまでライブ会場として使われたことのない場所ではあるが、事業者側には、九州の太宰府市の大宰府政庁公園でイベントホールなどの施設でない場所でも、「クオリティの高いライブができるノウハウ」があった。

これらのことから、「これまでのノウハウからできなくはない」との判断で開催が決まった。

### 第5章 富士見市や地元企業と行った事

取り組みとして、有安さん・高城さんの地元施設への事前訪問、また市の広報誌への掲載などが挙げられていた。本来は有償である「タレントの肖像」については「使ってもら

って構わないというスタンスで臨んだ。(お金を取らなくても、) 知名度の向上などで返ってくる」また楽曲の使用についても「作者の了解を得て、使ってもいいことにしてもらった」

市とのコラボについて、コンサート当日行われた富士見市のマスコットキャラクターとのコラボなど「地域のPRにお役に立てれば」との話があり、また、ライブ前の映像などで市をアピールすることについて、事業者側としては「ライブのイメージに縛られず、自由にすることができるのが、このグループの特徴で、全く問題ない」と語った。

ライブがもたらしたものとして、富士見市地域文化振興課側から提供された資料を引用して話があり、ここで一聴衆として参加していた本市地域文化振興課長が急きょ指名され登壇。

成果としては、「メディアに富士見市が取り上げられ、知名度が上がった」「子供たちがももクロメンバーとともに登壇し、思い出になった」「近隣の商店の売り上げ」「コンサート後のスタンプラリーの反響」の4点をあげ、「次に機会があればこうしたい」と題して、反省点として、「ライブに合わせて富士見市をPRするイベントを企画する」「市民ボランティアを活用(今回、募集は行わなかった)」「交通等について検証」の3点を挙げていた。

マイクは再び川上氏に戻り、反省点の一つとして、今回、課題となった騒音問題について川上氏は「プロとして万全を期したが、経験値をもってしても、天候には勝てなかった。」「今後の対策もしっかり取りたい」との話があった。

質疑応答では、来年4月の開催地を公募している件について、「7~8件ほど、自治体から問い合わせが来ている。条件が合うか、これらか調整する」「開催に当たって、特別なギャラ等を要求することはない。会場費を無料にしてもらうなどだけでも、イベントを主催する側としては大変助かる。」

また来年の開催時期を若干ずらしたのは今回を踏まえて、「寒さ、天候を見て、ずらしてみた」との話があった。

#### 【まとめ】

この講演には、ざっと見たところで200名近い方が集まり、立ち見も出る中、多くの自治体職員も参加していた。コンサートの誘致を考えている自治体だけではなく、市制周年に合わせた大規模イベントの取り組みを検討する中で、参考に聞きに来たという自治体職員もいた。

またセミナー会場となった展示会場には、スターダストプロモーションのブースもあり、今回の「春の一大事」の会場が模型として展示され、こちらにも多くの誘致を考える関係者やイベント関係者が問い合わせに列をなしており、関心の高さを見ることができた。

改めて、今回の「春の一大事」は単なるイベントとしてではなく、「モデルケース」としてイベント業界での着目があることを感じた。

講演で川上氏は主催者側と開催地が「ウィンウインの関係になる」ことを強調していた。主催者側の「ウィン」としては、イベント開催地の確保、行政とのコラボによる知名度向上などがあるだろう。

本市の「ウィン」についても、このテーマでの視察等が予想されることから、成果・反省点をしっかり検証することが議会側にも求められることを感じた。(了)